

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本小児外科学会  
理事長 奥山宏臣

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
- a. 特に学術的に重要と考えられるもの
- ① 毎年学術集会および秋季シンポジウムを開催し、会員が小児外科領域における最新の知見を発表し、討論する場を設けてきた。
  - ② 小児外科領域のガイドライン作成やその公開に積極的に関与してきた。
- b. 当該領域における国際的な役割
- ① 学術集会では International session を設けて、海外からの参加者との交流をはかり、国際的な学術活動にも貢献してきた。
  - ② 太平洋小児外科学会 (PAPS) の board member として本学会より 2 名が参加して、PAPS の運営や annual meeting の開催に協力してきた。環太平洋地区における小児外科の診療や基礎研究におけるリーダーシップを担ってきた。
  - ③ The World Federation of Associations of Pediatric Surgeons (WOFAPS) に council member を派遣して、諸外国の小児外科医とのネットワークを構築してきた。
- c. 活動からもたらされる社会的な意義
- ① 専門医育成による地域医療を含めた日本全体における小児外科医療体制整備への貢献
  - ② 関連領域の諸学会との連携をより密にして、小児医療における様々な議論の場や活動とともに参画してゆくと同時に、これまでと同様に母子保健医療や小児がん、難治性疾患に対する厚生行政においてアカデミアとしての役割を果たすために行政との連携を堅持した。
  - ③ 働き方改革における小児外科医療のあり方、学術集会の国際性の推進、小児外科関連研究会への提言を行ってきた。
- d. 学会運営上留意している点
- ① 次世代を担う若手小児外科医のリクルートならびに育成
  - ② 男女共同参画の推進

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- ① 日本外科学会と連携した専門医制度の構築
- ② 日本小児科学会と連携した小児医療における様々な議論の場や活動に参画